

平成 29 年度 京都市立大枝小学校 経営方針

I. 子どもの現状

1. 環 境

- ・自然に恵まれた環境にある。
- ・学校の役割や期待されるものは相対的に大きい。

2. 長 所

- ・子どもらしく素直で学習に対する意欲がある。
- ・運動に親しんでいる。

II. 平成 29 年度 学校教育の重点 (下線部は平成 28 年からの変更点)

1. 京都市の学校教育・目指す子ども像

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と未来を切り拓く子ども」～3つの姿～ (p.1)

- 京都が育んできた伝統と文化に立脚し、広い視野と豊かな感性により、よりよい人生や社会を創造する子ども
- 学校教育を通じた学びを生かし、社会的・職業的自立を果たす子ども
- 多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となる子ども

2. 学校教育において重視する視点 (p.3)

- 子どもの主体性と社会性の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校全体の教育活動の中で高める
- 全教職員が、「社会に開かれた教育課程」,「カリキュラム・マネジメント」,「主体的・対話的で深い学び」等を柱とする次期学習指導要領の内容についての理解を深め、日々の教育実践との関連を意識した取組を進める

<小中学校>

- 1 授業を通して自ら学びに向かう力を育み、身に付けさせる
- 2 家庭での自学自習の習慣をつける
- 3 自他を大切にする態度を育成する

4 「公共の精神」に基づく態度を育成する

III. 平成 29 年度 京都市立大枝小学校教育目標

「わかるまで学び 自他を大切にする大枝の子」
～確かな学力・豊かな心・健やかな体～

1. 「わかるまで学ぶ」について

- ・実態からカリキュラム全体を見直す。

→ 改善すべきは改善し、継承すべきは伝統にまで高める。

- ・「力をつける 45 分」を追究し、わかるまで教え切る。

2. 「自他を大切にする」について

- ・人権教育を基盤に、道德の時間をはじめ、あらゆる教育活動を統合させる。

3. 目指す姿

児童	1 友達がいるから学校が楽しいと言う子ども 2 勉強がよくわかるから学校が楽しいと言う子ども 3 <u>粘り強く、努力する子ども</u>
教職員	1 <u>学力向上に情熱をもって取り組む教職員</u> 2 <u>厳しいけれどこわくなく、優しいけれどあまくない教職員</u> 3 <u>時間を大切にし、タイムマネジメントのできる教職員</u>
学校	1 「わかる・できる」授業を行う学校（確かな学力） 2 思いやりの心を育てる学校（豊かな心） 3 健康維持・安全行動させる学校（健やかな体）

4. 基本方針

◆ 「確かな学力」の育成 ◆

- ① 大枝小カリキュラム（教育指導全体計画）の改定
- ② 協力指導体制
- ③ 週案（週間指導計画）の最適化
- ④ 英語教育導入への対策（＊木曜 6 校時を英語活動の時間に設定）

⑤ 補充・発展学習の計画的・重点的な実施と習熟の程度に応じた指導

⑥ 研究・研修の充実

⑦ その他

- ・全学級での ICT 活用推進
- ・市販教材の吟味と効果ある使い方の共有
- ・小中一貫教育推進, 「小中学び方ガイドライン」の浸透
- ・教科学習での異学年交流
- ・家庭学習の習慣づくり
- ・学校 HP 活用

◆ 「豊かな心」の育成 ◆

- ① 最後まで聴く。ていねいな言葉遣いをする。
- ② 自尊感情や自己有用感を育てる。
- ③ 「やり切る・がまんする・ゆずる・責任を果たす」心を育てる。

◆ 「健やかな体」の育成 ◆

- ① これまでの取組の継承と発展
- ② 実践的態度, 自分の生活に生かすまで

◆ チーム大枝の結束 ◆

- ① すべては子どものために
- ② 理想と使命とワークライフバランス